

## 〔中小企業の目〕（福岡）

# 人は人を浴びて人となる —我が人生と我が事業—

山 口 毅  
（株式会社山口油屋福太郎）  
代表取締役社長



（株）山口油屋福太郎は1909年（明治42年）に初代山口源一が福岡市内で食用油製造を始め、創業しました。私は1966年（昭和41年）に入社し、1984年に代表取締役社長に就任しました。現在では、業務用食材・資材の卸売業、明太子並びに明太子入りせんべい「めんべい」と北海道工場の「ほがじゃ」の製造販売、飲食店経営の「食」中心の事業を行っております。

私は「人は人を浴びて人となる」を座右の銘としてきました。これまで、色々な方との出会いがあり、たくさんの方の事を学び、指導を受けてきました。人は縁あって、出会った人から学び、指導を受け、一人前の人間として大きく成長するものだと思います。

私は小学校に入学する頃から商売に人一倍興味があり、将来は自分で商売をやると当時から決めており、福岡商業高校（現、福翔高校）に進学しました。1959年（昭和34年）皇太子殿下（現、天皇陛下）のご成婚に際し、日本の若人を青年海外派遣事業として、全国から90人、福岡県では2～3名の青年を派遣することになり、早速応募いたしました。当日、県庁の試験場に行くと110人位の応募者があり、私はアメリカ・中南米を希望地とし、最後の面接試験では「ここに誰が一番行きたいかという温度計があれば、私が一番高いでしょう」と言ったら、みなさんより笑い声がおきましたが、後日新聞の一面で私が中南米班の団員に選出されたことを知りました。高校同窓会の会長中牟田喜兵衛さんには壮行会をしていただき、「先輩の出光佐三さんに会いなさい」と言っていただき、出光興産に行くと出光さんから「政府も良いことをしますね」と温かく迎えられ、当時の給料10ヶ月分くらいの餞別をいただきました。その後も上京するたびに、出光さんのところを訪問し、福岡に来られるときは、宿泊先の博多帝国ホテルにお伺いもしました。

福岡に帰り日立製作所への入社試験を受け、不採用にはなりましたが、その縁で1961年（昭和36年）日立系の（株）正興商会（現在の（株）正興サービス&エンジニアリング）に入社しました。家電販売店の担当となり、九州機材倉庫（株）（現、（株）ベスト電器）の北田光男社長にお会いすることになり、同社長の「商い」ということについて随分教えられとともに、商売の真髄を学ばせてもらいました。その後、将来の幹部候補として日立の研修学校で学び、その折の研修で最も感銘を受けた講師が当時リコー社長だった市村清さんであります。同氏著書「光は闇をつらぬいて」に大変大きな影響を受け、「物事は徹底した努力と発想の転換で変化させ得る」ことを教えられました。

私は本年2月に福岡市内の中学校と福岡県内の高校・公立図書館に同書物を寄贈しました。これからの地元福岡を背負う若い人たちに市村清さんの魂に触れていただきたいと思います。

ます。

山口油屋へ入社当時、取り扱い商品は食用油だけでしたが、その後業務用食品を付加し売上高は順調に増加しておりました。しかし将来展望として製造業分野への進出を考えておりました。1974年は製造業分野への進出の第一歩（明太子福太郎ブランドの誕生）の年となりました。取引先である某メーカーより社員が辛子明太子をおみやげにもらってきましたが、辛くて食べられず、酒で洗って辛味をとり更に工夫を重ね、実家ででの白菜の2度漬け方法を取り入れ製品化しました。その頃、三菱商事が岩田屋デパートでの三菱フェアで出品したところ、大変な好評を得ました。その後同デパートから本格的な出店要請もあり出店（1.8mのスペース）したところ1年間で12億円も売れ、とても大きな話題となりました。順調すぎるほど明太子の売上は増加しました。

当時、先々の展望を考えると200カイリ問題と国産スケトウダラの水揚げ量の減少も懸念され、クジラのようにスケトウダラが捕れなくなったらどうなるか・・・それ故、明太子の売上高を全体売上高の20%にキャップすることを経営方針として決め、今後の営業戦略として外食関連の資材の品揃えの増加と明太子派生商品の開発を目指すことにしました。

弊社の新商品開発は現状に満足せず、常に一步先を見据えて次の新商品開発に注力しております。明太子の次の時代の新商品はこのような土壌の中から発芽したものといえます。それは某日、タコの入ったせんべいの「たこせんべい」をもらい、研究を重ねる中で辛子めんたい風味の焼き菓子の試作品になり、それを契機に自社製造体制の取り組みを始めたものであります。商品名は社員のアイデアで「めんべい」（めんたいこせんべい）で商標登録し、2001年に販売開始し、2006年に福岡県田川郡添田町の国定公園の一角にある土地3,270坪・建物（造り酒屋跡地）1,120坪を改装し、英彦山工場として操業開始しました。その後も順調に口コミで売上も増加しておりました。

2011年（平成23年）TBSの番組「がちりマンデー!!」に博多で大人気のお菓子として「めんべい」が紹介されましたところ、倍、倍で売上が増加しました。ところが主原料の馬鈴薯澱粉が前年の天候不順により不作となり、調達量が前年調達量を大きく減少することにより、緊急かつ大きな経営課題となりました。全農さんの協力があり、当面の山は乗り越えることが出来ました。

NHK朝のラジオ番組で北海道小清水町の青年部が世界一大きい「でんぷんだんご」を作ったことを知り、私はすぐ北海道に飛び小清水町農業協同組合の組合長と小清水町長を訪ね、窮状を訴えその後澱粉の安定供給と廃校小学校の譲渡譲受に関する「弊社と農協と行政の三位一体の枠組みのプロジェクト」がスタートし、平成25年7月に小清水町北陽工場が操業開始いたしました。又、福岡県添田町においても旧県立田川商業高校跡地を譲受し、平成26年7月に添田町工場として操業開始しております。現在、二工場の従業員数は77名であります。

事業の拡大とともに雇用の問題と人材育成は大きな課題であります。省みますと平成2年～平成3年頃は採用難の時期で弊社も苦勞が多い時期でありました。その頃福岡市バスケットボール協会の会長に就任したこともあり、バスケットボールコート（体育館）と寮を新設しました。お陰様でその当時、採用面で優秀な若人を採用でき、現在彼らが各部門の中間管理者として成長し、事業運営の要として活躍中であります。

添田町工場においては本年4月に女子ソフトボール部を創設します。工場敷地内に女子寮も完成し、本年度は13名が入社決定し、来年も15名位の採用計画を考えております。人口減少と少子高齢化等、採用環境が芳しくない状況下で今後の事業拡大と労働力確保と人材育成はこれまで以上に事業経営の重要なファクターになるだろうと考えております。